

No.30

2012.1.12

すべての人に喜びの歌を

第九たいはす

通刊 969 号

担当 あきら

ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0046 高崎市江木町483 TEL/FAX: 027-323-0233(団長渡辺) 携帯電話: 080-5474-2673(事務局長中村)

◆入場者数1406人! 自粛ムードの中、会場へ足を運んでくれたお客様に感謝

第38回高崎の第九コンサート

2011年は東日本大震災が起こり、芸術文化の世界にも自粛と節約の波が押し寄せてきました。

3月の計画停電の合間を縫った練習時、私たちには歌しかないと決意し、練習を継続しました。励ます歌をたくさん取り入れ、メイコンサートは東日本大震災復興応援チャリティになりました。会場は一体となり、ステージ上もホールも団員もお客様も手をつなぎ、一緒に歌いました。私たちは音楽による絆によってつながっている。多くの募金と入場料の全額を応援のために被災地へ贈らせていただきました。

そして迎えた年末の第九コンサート、年の暮れに歓喜の歌が歌えるか。そんな疑問もありました。

でも私たちは歌の力を知っています。歓喜の歌は、今がうれしくて仕方ないという歌ではありません。苦しみも悲しみも全てを知った上で、歓喜のために歌う曲なのです。だから世界中で愛されているのです。

私たちは歌い続けます。12月17日のコンサートにお越しになられたお客様とともに。世界の平和を祈る世界市民とともに。ささやかな歓喜の輪が、この世の中を包み込める日のために。

ご来場いただき、ありがとうございました。それぞれの思いをお客様へお伝えください。



ベートーベンの「交響曲第9番」を力強く歌い上げる
高崎第九合唱団

力強く歌い上げた。

高崎第九合唱団(渡辺義之団長)の第38回演奏会が、高崎市の群馬音楽センターで行われ、団員約100人が群馬交響楽団の演奏に合わせ、ベートーベンの「交響曲第9番」を6回行ってきた。

「歓喜の歌」
高らかに
高崎で「第9」

12/19
上毛新聞

音楽センター開館50周年にあたる今年の演奏会に迎えた指揮者は、ベトナム国立交響楽団音楽監督の本名徹次さん。
「クリスマスメドレー」、ヘンデルの「ハレルヤコーラス」に続いて、中学生から70代までの団員が「歓喜の歌」を高らかに響かせると、会場を埋めた聴衆から大きな拍手が送られた。
合唱団は1974年設立。2006年にNPO法人化した。これまでにチェコ・ブルゼニヤドイツ・ニュルンベルクなどヨーロッパで、「第9」の公演を6回行ってきた。

◆第7回ヨーロッパ「バルセロナ」公演団員募集

2012年10月「バルセロナ」にて、EU国歌の「第九」を2夜連続で歌う～

スペイン・バルセロナ第九演奏会の団員募集開始です。参加人員90名以上が目標。積極的に宣伝、勧誘して下さい。1月15日が発声式、同時に旅行説明を致します。まだ行けるかどうか分からない方も、話を聞くのはタダ、練習に参加しておいてもメイコンサートの曲と同じで、損することはありません。

※団費を二重に払う必要はありません。登録団員は日曜練習も参加できます。



◆イベント情報

☆石原克己ソロリサイタル 2月3日(金)18:30←チケットはソプラノ新井幸子さんまで

伊勢崎市民文化会館小ホール 全席自由席2,000円(高校生以下1,000円)

スロヴェニア第九公演でテノールソロをしてくださいました方です。

♪高崎市民フェスティバル 2月5日(日)10:00 高崎市文化会館大ホール 入場無料

JOY女声合唱団が出演 出演時間16:20頃 指揮赤羽洋子先生ピアノユリヤ・レヴ先生

曲目:りんご追分・お祭マンボ・ホフマンの舟歌・あんねんポルカ・ラデツキー行進曲

◆CD購入申込み受付中(群響からマスターテープが昨日届きました)

演奏会CD:1000円。申し込み用紙に氏名を書いて下さい。代金は現品と引き換えです。

DVDの制作は致しません。演奏会写真は、昨年中に申し込まれた方のみです。

◆年末、各地の第九談話

12月4日富岡の第九「心温まる第九」 テノール 林英敏

12月4日富岡で第九を我が合唱団からは大里御大と、若輩者の林が歌いましたが、そこに観客として今年97歳になられる大里さんのお母様が来ておりました。大里さんのお姉さんが付き添い、「わが息子の晴れ姿、晴れ舞台」を観に来られました。97歳までカクシャクとお元気で息子が歌う第九を聞きに来られるとは、なんと素敵なことではありませんか！筆者の林は、お母様の気持ちに感動し、また、お母様に歌う姿を見せたかったという息子の母親への思いに感動しました。



12月17日高崎の第九「初めての演奏会を終えて」 ソプラノ 本木憂子

皆様お疲れ様でした！！あこがれだったベートーヴェン“第九”を皆さんと一緒に歌えて、オーケストラと一緒に演奏出来て本当に感激の一言です！！“夢がかなった日”となりました。リハーサルも本番も本当に楽しく、幸せな音楽の時間でした♪昨年は客席から観ていて、ステージから湧き出るエネルギーに圧倒され、アンケートに“私も歌いたい！”と書きました。そのことばを受け止めて『高崎第九合唱団』と私のキューピッドになってくださったB・大里様に感謝です！！そして本番に楽しんで歌うことが出来るよう、ご指導いただいた先生方に感謝申し上げます。来年、再来年・・・と歌い続けていきたいです！！ありがとうございました！！

12月17日高崎の第九『楽しかった～！』 テノール 四戸敬昭

努力と苦勞をすればするほど、事を成し遂げた時の感激、喜びは計り知れないといわれますが、本当にその通りだと実感しました。私は9月に入団した合唱未経験の65歳です。苦勞の106日でした。本番の舞台に立って、大観衆が私の目の視野全体を埋め尽くします。深い感動がスタートします。オーケストラの＜音合わせ＞が始まると、感動が高揚します。前奏が始まって、第1声「♪いーざー♪」⇒【やったー！！】、ジーンときます。チョー苦手な第313小節から「♪Kus-segab♪」⇒【できた、できた！！メチャ、きれいじゃーん！】。2重フーガ⇒感動というよりも、陶醉＋悦楽＋法悦。第915小節「♪Tochter♪」⇒【ワオー、すごーい！】。胸がいっぱいになります。

私と、同時入団の高橋仁さんの為に、毎週毎週、早朝出勤して下さった赤羽先生に深く感謝です。

この3か月半の体験のおかげで、私の寿命は10年伸びたと思います。その源泉は、団員の皆様の心温かさ、エスプリ、笑い声の渦、歌うこと自体、数々の新しい体験です。新しい体験というのは、混成4部合唱への参加、オケとの共演、背後からオケを聴いた事、蝶ネクタイ着用です。

その日、岩手から出てきた76歳と69歳の私の姉『まんずまんず*、いがったごどー(*=veryvery、表現全体としては、最高の賛辞)』次の日の朝食(ホテルメトロポリタン)の時、『本名指揮者と握手すてすまったー！』子供の様に大はしゃぎして岩手に帰りました。願わくは、アンコールで＜高崎市民の歌＞を聴衆と一緒に歌って欲しかった！とも言っておりました。深謝！

P. S. 二人の姉、伊香保の福一がめちゃくちゃお気に入りだったようです。

福一の社長さんって、ドイツ語、すごいんだって！昔、合唱団員だったんだそうで！

12月25日足利の第九 ベース 安達伸一

昨日上野さんと足利第九を聴いてきました。素晴らしい演奏でした。高崎第九ベテランのトラ(エキストラのこと)が参加したればこそでしょう。ベースの人は高齢者が多くて渋い音色でしたので、これからは若手の響く声の参加があればさらに良くなるのではと感じました。

今年は富岡第九と足利第九を聴きましたが、聴くことで感動するのも良いなと思いました。

12月25日足利の第九「恒例！合唱付き宴会電車」 林英敏

足利行きの合唱団有志の男衆15人。御仁の気持ちは主客転倒で満場一致。合唱という緊張感から開放され、ノミより気が小さな男どもがやっと手足を伸ばし、精神を揺蕩うひときは、我が家ではなく、夜陰を走る怪しいローカル電車の中。そこには日ごろの先達もいず、足枷から解き放たれた男どもは満面の笑みを浮かべながら美酒に陶醉し、一時の談論風発と駄洒落のシャワーに身を任せた。思い起せばプラットホームを脱兎のごとく走り、停車時間を気にしながらの酒類買い込み猛ダッシュがなくなった平和な今日、唯、乗客に気を使うそぶりは、ほんの刹那。乗車すればたちまち電車は、酒池肉林のイリュージョンに場面は転回したのでございました。(肉林はありません。)